

**SPring-8 ユーザー協同体研究会 利用者の動向調査報告書 (H28年度版) 2**

研究会名：放射光構造生物学研究会

日 時：2016年8月29日 19:40 - 21:00

場 所：関西学院大学 神戸三田キャンパス

出席者：(議事録記載者に下線)

計 30 名

小林優真、佐伯優奈、三田雄也、山口宏 (関西学院大)、西澤知宏 (東京大)、沼本修孝 (東京医科歯科大)、栗栖源嗣、竹下浩平、田中秀明、中川敦史、山下栄樹 (大阪大)、梅名泰史 (岡山大)、水島恒裕 (兵庫県立大)、中村照也 (熊本大)、加藤英明 (Stanford Univ.)、吾郷日出夫、上野剛、河野能顕、杉本宏、引間孝明、平田邦生、山本雅貴 (理研)、奥村英夫、河村高志、熊坂崇、仲村勇樹、長谷川和也、馬場清喜、水野信宏、村上博則 (JASRI)

3) SPring-8次期計画に関する事項

・SPring-8次期計画において期待される利用技術の開拓や科学分野創成に関する意見など

1. アンジュレータ光源のビームラインについては、微小結晶や高難度結晶化試料の解析が進むことが期待されるが、光源の高度化に見合った検出器の準備が重要だと思われる。また、ビームサイズの微小化一辺倒ではなく、大きな試料への対応も依然として必要であり、こうした取り組みにも期待したい。
2. 偏向電磁石光源のビームラインについては、輝度は向上する点については期待できる一方、従来測定に供していた試料の性質を考慮すると、フラックスの低下による回折データの統計的な劣化とエネルギー範囲の縮小による異常分散法の利用縮小が懸念される。現在も利用拡大のために、さまざまな取り組みを施設でも進めているが、研究会としても利用方法についてさらに検討を行っていく。

(研究会で議論した該当事項のみご記載ください。各研究分野やビームラインの利用における最新状況や昨年度の議論からの発展的な内容や個々の解決すべき課題の詳細についてご議論いただいたことを報告書に記載ください。)